

8 月 教 育 委 員 会 会 議 会 議 録

日時：令和5年8月18日（金） 午後2時

場所：山口県教育庁教育委員会会室 (公開)

| | |
|------------------|---|
| <p>教 育 長</p> | <p>それでは、ただいまより令和5年8月の教育委員会会議を開催いたします。</p> <p>はじめに、この7月16日に教育委員に就任されました藤田委員は本日が最初の会議となりますので、一言、御挨拶をいただきたいと思ひます。</p> |
| <p>藤 田 委 員</p> | <p>皆さんこんにちは。この度教育委員に就任いたしました藤田 紫と申します。普段、教育と携わることはありませんが、一生懸命努めたいと思ひますので、皆様どうぞよろしくお願いいたします。</p> |
| <p>教 育 長</p> | <p>よろしくお願ひします。それでは、本日の署名委員の指名を行います。和泉委員と藤田委員、よろしくお願ひします。</p> <p>それでは、本日の議題の審議に入る前に、審議の公開の可否について決定したいと思ひます。本日の議題のうち、協議事項1、協議事項2は、教育行政の公正又は円滑な運営に支障を生じるおそれがあることから、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律第14条第7項」の規定に基づき、非公開とすることが望ましいと思ひますが、いかがでしょうか。</p> |
| <p>全 委 員</p> | <p>承 認</p> |
| <p>教 育 長</p> | <p>それでは、協議事項1、協議事項2については非公開で審議することといたします。</p> <p>それでは、報告事項に入りたいと思ひます。 報告事項1について、教職員課から説明をお願いします。</p> |
| <p>教 職 員 課 長</p> | <p>お手元の資料①の2ページを御覧ください。7月20日に実施要項を発表しました「山口県立学校職員（実習助手・寄宿舎指導員）採用候補者選考試験」についてご報告いたします。3ページ以降に実施要項を掲載していますが、ここでは概要を示した2ページで説明させていただきます。まず、1の表一番右側の「職務の概要」欄を御覧ください。</p> <p>実習助手は、県立高等学校等において実験や実習等を行う際に、教諭の職務を助けることを主な職務としており、寄宿舎指導員は、特別支援学校の寄宿舎において、児童生徒の日常生活上の世話や生活指導を行います。左側から二番目の「選考区分」の欄を御覧ください。実習助手については、一般選考と、障害者を対象とした選考を実施し、それぞれ、普通教科、工業4区分を「志願区分」としてあります。その右の「採用見込者数」を御覧ください。実習助手については一般選考</p> |

| | |
|-----------|--|
| | <p>5人程度、障害者を対象とした選考を1人程度の計6人程度としています。内訳は表の通りです。また、寄宿舍指導員は1人程度を見込んでいます。</p> <p>次に、2の受験資格についてですが、来年4月1日時点で、18歳から59歳の方を対象としています。3の志願書類等の受付は、8月23日から9月11日までの間で行い、4の試験については、10月29日に山口県セミナーパークで実施します。5の試験の内容については、普通教科の実習助手と寄宿舍指導員については、教養試験・小論文・面接・適性検査を行い、工業の実習助手については、教養試験・専門教科試験・面接・適性検査を行います。</p> <p>これらの試験結果等をもとに総合的に判断しながら、人物を重視した選考を行い、6の(1)のとおり、11月30日に「採用候補者名簿掲載予定者」を発表することとしています。以上、御報告させていただきます。</p> |
| 教 育 長 | <p>ただいま、教職員課から報告事項1について説明がありましたが、意見、質問はありますか。</p> |
| 佐 野 委 員 | <p>一点教えていただきたいんですけども、教職員の採用のときもありました考慮事項としてICT活用能力所有者というのが新しくありました。そちらの方は、国家試験ということで、方向性とかレベルが若干違う形でやっていらっしゃる所の三つみたいなんですけれども、その辺りどの程度考慮をされる予定なのか、またどのような感じでのこの三つの資格合格者を予定されているのか教えていただきたいです。</p> |
| 教 職 員 課 長 | <p>ありがとうございます。考慮につきましては選考に関わることもありますので中々詳しく申し上げにくいところではございますが、三つほどそちらにITパスポート試験、それから基本情報技術者試験、応用情報技術者試験ということであげさせていただきますけども、情報処理技術の一分野だけでなく、データベース、ネットワーク・セキュリティなど幅広い分野に精通した人材を求めています。当然、社会人で取られている方もおられますが、高校生でも受験は可能な試験もございますので、そういった中で教員と同様に学校のネットワーク管理やセキュリティ、そういったところを担っていただける学校職員の方に勤めていただきたいということでございます。</p> |
| 佐 野 委 員 | <p>ICTは非常に導入されておられるので、その辺の仕組みがわかってない方だと、どうしても調子が悪くなったりするとブラックボックスのようなもので手がつけられない状況になります。そうするとこのような試験に合格していらっしゃる方、そういう素養をもっている方が一定数いらっしゃるということは心強いのではないかと思いますので、そういった方を積極的に採用いただきたいと思います。</p> |
| 和 泉 委 員 | <p>教えていただきたいのが、工業の方の受験資格のところ、3ページ中ほどに資格要件とありますが、高校の工業の普通免許取得者や取得見込み者を除くとありますが、除くのはこういった意図でしょうか。</p> |

| | |
|--------|--|
| | 先生になりたい人が助手で入って勉強して、来年度受験に生かすとか、そういった道はないのでしょうか。素朴な疑問ですが教えてください。 |
| 教職員課長 | いわゆる専門教科の場合は基本的に全て、例えば農業であるとか他にもそうなんですけれども、先ほど委員お示しの通り、採用試験のほうで対象になりますので、是非そちらの方を受けていただきたいというのが主な理由でございます。またこちらの実習助手の選考試験の方は高校生も受験できますので、工業人材ということで、高校卒業者をこちらの方ということで、競合を避けたいというのも一つ考えているところでございます。 |
| 和泉委員 | 今回は6人の採用見込み者数ですけれども、県内のこうした職に就いている方はどれくらいいらっしゃるのでしょうか。 |
| 教職員課長 | 今年度は250人が県内の高校等で配置されているということでございます。普通教科が79人、そしてそれ以外となります。また、今のは臨採を含めた数でございます。 |
| 教育長 | それでは、報告事項1については、以上のとおりとします。続いて報告事項2について、義務教育課から説明をお願いします。 |
| 義務教育課長 | <p>今年度の全国学力・学習状況調査の結果について、義務教育課での分析結果を御報告します。資料②を御準備ください。</p> <p>まず、教科に関する結果について、2ページを御覧ください。</p> <p>(1)に、全体の結果をお示ししています。小学校では、国語は全国平均と同程度、算数は全国平均を下回るという結果でした。中学校では、国語は全国平均と同程度、数学は全国平均を上回り、英語は全国平均を下回るという結果でした。(2)には、各教科の結果として、全国と本県の平均正答数及び平均正答率をお示ししております。平成29年度から、都道府県等における各教科の平均正答率は、小数第一位を四捨五入した整数値で提供されていますので、数値の表の下に、全国平均との差を範囲でお示ししております。3ページには、参考として、平成31年度から令和4年度の結果も掲載しております。</p> <p>4ページからは、各教科の領域別平均正答率を掲載しています。こちらは、7月末にお送りした資料には掲載していなかった資料になります。4ページ上側の小学校国語では、「読むこと」について、全国平均を上回り、「書くこと」については全国平均と同じ、「言葉の特徴や使い方に関する事項」「情報の扱い方に関する事項」、「話すこと・聞くこと」については、全国平均を下回りました。4ページ下側の小学校算数では、すべての領域で全国平均を下回りましたが、特に「図形」の領域で、全国平均との差が顕著でした。5ページ上側の中学校国語においては、「我が国の言語文化に関する事項」「話すこと・聞くこと」「読むこと」の領域で全国平均を上回りましたが、「言葉の特徴や使い方に関する事項」「情報の扱い方に関する事項」「書くこと」については、全国平均を下回りました。5ページ下側の中学校数学では、「数と式」、「データの活用」については、全国平均を</p> |

上回りましたが、「図形」「関数」については全国平均を下回りました。

6 ページ中学校英語では、すべての領域で全国平均を下回りましたが、特に「聞くこと」の領域で、全国平均との差が顕著でした。なお、「話すこと」については、抽出校を対象とした全国値のみの公表となり、都道府県別の結果については公表されておられません。

次に、7 ページからは、正答数分布のグラフを掲載しています。こちらの資料も、7 月末にお送りしたものには掲載していませんでした。柱で山口県を、点で全国を表すとともに、特徴的な部分を丸で囲んでいます。7 ページ上側の小学校国語では、全国と比べ、全問正解している児童の割合が低く、正答数が 10～12 問の児童の割合が高いという結果でした。7 ページ下側の小学校算数では、全国と比べ正答数の多い児童の割合が低いという結果でした。

8 ページ上側の中学校国語では、全国と比べ全問正解している生徒の割合が低いという結果でした。8 ページ下側の中学校数学では、全国と比べ正答数の多い生徒の割合が低く、平均正答数付近の生徒の割合が高いという結果でした。

9 ページの中学校英語では、全国と比べ正答数の多い生徒の割合が低く、正答数の少ない生徒の割合が高いという結果でした。

10 ページからは、設問別正答率を掲載しております。こちらも、7 月末にお送りした資料には掲載していませんでした。この設問別正答率を基に、16 ページから 35 ページにかけて、相当数の児童生徒ができていた点や、課題のみられる点について掲載しております。なお、教科によっては、「全国平均正答率を上回っているものの課題のみられる点」についても載せております。

それでは、各校種・教科ごとに御説明します。まずは、小学校についてです。16 ページを御覧ください。国語では、16 ページ「送り仮名に注意して、漢字を文の中で正しく使うこと」、17 ページ「目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約すること」などがよくできていました。一方で、18 ページ「図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること」などに課題がみられました。なお、課題となった点については、19 ページでお示ししておりますように、児童生徒がどのような誤答をしているのかを分析し、日々の学校生活において、誤答の状況に沿った課題解決のための手立てを講じていくことが大切であると考えております。そのため、お示ししておりますような、誤答を基にした指導改善の視点を各学校にお伝えするとともに、先生方が、目の前の児童生徒の状況に応じた手立てを見つけていけるよう、支援していこうと考えているところです。他の校種や教科についても同様に考え、資料もそのようにお示ししております。

続いて、20 ページを御覧ください。算数では、20 ページ「伴って変わる二つの数量について、表から変化の特徴を読み取り、表の中の知りたい数を求めること」、21 ページ「一の位が 0 の二つの 2 位数について、乗法の計算をすること」などがよくできていました。一方で、課題については、22 ページ「高さが等しい三角形について、底辺と面積の関係を基に面積の大小を判断し、その理由を言葉や数を用いて記述すること」などがあげられます。

続いて、中学校についてです。24ページを御覧ください。国語では、24ページにありますように「目的や場面に応じて質問する内容を検討すること」、25ページ「事象や行為、心情を表す語句について理解すること」などがよくできていました。一方で、26ページ「文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えること」などに課題がみられました。

続いて、28ページを御覧ください。中学校の数学では、28ページのように「数と整式の乗法の計算」、29ページ「問題場面における考察の対象を明確に捉えること」などがよくできていました。一方で、30ページ「構想に基づいて証明すること」などが課題としてあげられます。

続いて、32ページを御覧ください。中学校の英語では、32ページのように「情報を正確に聞きとること」がよくできていました。しかし、33ページ「社会的な話題について、短い文章の要点を捉えること」など、全国平均正答率を上回っているものの、正答率が60%を下回っており、課題のみられるものもありました。また、34ページ「短い文章の要点を捉えて、考えとその理由を書くこと」など、多くの生徒にとって課題がみられたものもありました。

続いて、36ページからは質問紙調査の結果について説明します。ここでは、県として経年変化に着目している質問や、今年度新たに追加された質問などについて取り上げて説明します。なお、質問によっては、年度によって、若干、質問の文言が異なっているものもありますが、同質の内容ということで、経年変化を追っています。

まず、児童生徒に対して行われた児童生徒質問紙調査の結果についてです。「よかった項目」としては、41ページ「授業でコンピュータなどのICT機器を使用した割合」、44ページ「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思っている割合」、48ページ「話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている割合」などが、全国と比べて高くなっています。

これらの他、多くの設問で、全国に比べてよかった項目がみられますが、「課題の見られた項目」もいくつか挙げられます。例えば、ページを戻りますが、39ページ「自分で計画を立てて勉強することを『よくしている』と回答した児童生徒の割合」は、小学校で全国平均を下回り、中学校で10%台となっており、ここ数年、課題となっている項目の一つです。

次に、各校の校長に対して行われた学校質問紙の結果についてです。52ページを御覧ください。「よかった項目」としては、52ページ下側「児童生徒の姿や地域の現状等に関するデータなどに基づいた、一連のPDCAサイクルを確立している小中学校の割合」、54ページ下側「児童生徒一人ひとりに応じた学習課題や活動の工夫をしている小中学校の割合」、58ページ上側「学習評価を指導改善や学習改善に生かせるようにしている小中学校の割合」、61ページ「配備された1人1台端末を、家庭で使用できるようにしている小中学校の割合」などが高くなっています。これらの他、多くの設問で全国に比べてよかった項目がみられますが、66ページ「児童生徒が行った家庭学習の課題について、その後の教員の指導改善や児童生徒の学習改善に生かす取組をしている小中学校の割合」のように、全国平均よ

| | |
|---------|--|
| | <p>り割合が高いものの、昨年度と比べて、肯定的な回答の割合が減少している項目もあります。以上が質問紙調査の結果の概要です。</p> <p>最後に、今後の対応についてです。先ほど、児童生徒質問紙の結果についてお伝えした際に取り上げました「自分で計画を立てて勉強している」児童生徒の割合が高くないことから分かるように、児童生徒が、自ら学んでいこうとする態度には課題がみられています。このことは、「課題解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる」「国語や算数・数学の勉強が好き」などの質問からもみてとることができました。そういったことを踏まえた今後の対応について、68ページを御覧ください。</p> <p>県教育委員会、市町教育委員会、学校が連携して、「やまぐち型地域連携教育」による家庭や地域との連携・協働を基盤とし、「学校の組織力の充実」、「教員の授業力の向上」、「学校・家庭・地域の連携力の強化」の三つの視点からの取組を推進するとともに、検証改善委員会からの客観的評価を受け、検証改善サイクルに取り組みます。また、学習指導要領の趣旨を踏まえた教育活動の更なる充実を図り、児童生徒一人ひとりの確かな学力の定着と向上に向けた取組を推進していきます。特に、学校の組織力の充実については、これまで以上にやまぐち学習支援プログラムの活用を軸にした組織的な指導体制づくり、全校体制による学力課題の焦点化と年間2回の検証改善サイクルの活用を進めます。また、教員の授業力の向上については、引き続き「振り返り」に注目し、「主体的・対話的で深い学び」の実現をめざした授業改善、学ぶ姿勢と実践場面を重視した研修を実施していきます。加えて、学校・家庭・地域の連携力の強化については、コミュニティ・スクールを核とした「学力向上」の取組の強化、異校種間連携の充実による学習環境づくりを推進してまいります。</p> <p>これらの取組を通して、「学習が分かる」「学習することが楽しい」「学習することは大切だ」と思う児童生徒を増やすことで、自ら学ぶ姿勢も高めていけるようにしてまいります。大変長くなりましたが、全国学力・学習状況調査の結果についての報告は以上です。</p> |
| 教 育 長 | <p>ただいま、義務教育課から報告事項2について説明がありましたが、意見、質問はありますか。</p> |
| 佐 野 委 員 | <p>質問なんですけれども学力学習調査の結果というのは生徒個人に結果が戻るものなののでしょうか。</p> |
| 義務教育課長 | <p>結果につきましては各学校のほうから児童一人ひとりに、届いてるということになります。</p> |
| 佐 野 委 員 | <p>特に英語が難しかったという報道もあって、私もやってみたんですけども確かに難しかったです。しっかりその辺をフォローしてあげないと、自信をなくしたり嫌いになってしまうといけいないので、しっかりフォローをしてあげればなと思います。ちなみに英語の「話すこと」についてですが、山口県はどれくらいの雰囲気だったのでしょいか。数値が出たのでしょうか。全国では12.4%の正答率であったとあります。</p> |

| | |
|--------|---|
| 義務教育課長 | その数値につきましては、全国の数値しか今、手元にありませんので、またこれから分析して分かると思いますが、若干全国よりは低いのではないかなと推察しております。 |
| 佐野委員 | 逆にできたところは、「ホントよくできたね」と言ってあげたらいいなと思います。 |
| 義務教育課長 | これも報道であったかと思いますが、昨年度の英語I B Aの結果において、あくまでも学校の先生方の判断でございますが、山口県の子どもたちの「聞くこと」、「読むこと」について、高い評価となっております。特に今回できなかった「話すこと」、「書くこと」については、これから授業のいろいろな先生方の研修や、我々が行っている研修会によって課題となる点については一緒になって取り組んでまいりたいと思います。 |
| 小崎委員 | 先ほど説明にありました、各教科での「課題のみられる点」に対し、この「結果を踏まえて」とありますが、この取組は今回初めてされたのでしょうか。間違いが多かった問題の例を出して、それに対して今後対応しようということは今回初めてされたのでしょうか。今までも行っていたのでしょうか。 |
| 義務教育課長 | この誤答分析をして、子どもたちや先生方の授業改善に繋げることにしましては昨年度以前からやっていることでございます。これまでの取組として、テストが終わった後すぐ問題を先生方に実際に解いてもらったり、地域の方と一緒に問題を解いてもらったりして、その中で子どもたちがどこでつまづいているのか、どこを間違えているのかということをやっていたのですが、その成果が今回の数値として表れておりません。我々も様々な取組を進めていく中で、全ての学校で確実にできているのであれば、別の手立てを打つということもありますけど、この誤答に対する取組については継続して進めていきたいと考えております。 |
| 和泉委員 | きめ細かな分析をされて、間違ったところをフォローして指導に生かすということで、子どもたちが間違ったところも納得できるような形で、自信をもってほしいと思います。気になるのは7から9ページのグラフですが、正答数が高いところに山口県の人数が少ないということは、優秀な子どもが少ないとみるのか。または、実線で囲っているところは増えており、成果となっておりますが、そこから正答数の高いところに移動することが課題であるとみるのか。両方とも課題であると思うのですが、これは構造的な問題とかはあるのでしょうか。 |
| 義務教育課長 | 構造的な問題というところは、はっきりとしたことは言えませんが先ほど御指摘がありましたように高い正答数が少ないことが今年度は昨年度と比べて顕著に出てきたところですよ。これまでのように、言葉は悪いかもしれませんが、下位の4分の1層について、基礎・基本を徹底させるためにどのような手立てを講じるかということに加えて、 |

| | |
|---------|--|
| 和 泉 委 員 | <p>授業において子どもたちが発展的な課題に挑戦する機会をつくり、習得した知識や技能を様々な文脈で使うことができるような取組も、しっかり進めていくといった対策を考えていかなければならないなど考えております。</p> <p>一つ気になっているのは、小学校もこういう傾向にあるので思ったのですが、高校入試のとき、以前各高校で独自の問題を作っているということがあって、いわゆる進学校ではそういった難しい問題が出るので、学校も頑張っって高度な問題を解かせるなどもあったと思うのですが、ざっと見ただけですが、10ページからある各問題の全国平均の正答率が低いほど山口県の子どもたちが落ちているという傾向もあるんじゃないかなと思って気になりました。簡単なものはよくできていて、難しいものはずっとできていないと感じます。いろいろな要因がからんでくることと思いますが、正答率が高くなるような方法で考えていただけたらと思います。</p> |
| 義務教育課長 | <p>年々、新しい課題、新しい分析でいろいろな傾向が出てますけど、今おっしゃったように新たな課題につきましてもこれからしっかり分析し、我々が分析するだけじゃなくそれをしっかり市町教委と一緒に、学校に届ける、子どもたちの教室までそういった方法を届けることに努力してまいりたいと思います。</p> |
| 木 阪 委 員 | <p>3ページのところを見ておまして、平成31年度からの推移でございますが、数値的には、微妙な感じの推移の仕方という表現をさせていただきますが、山口県はICT導入のとても早い県でございますので、まだ模索のところもあると思いますし、その結果が出てくるのは少し時間がかかるのかもしれませんが、先生方や生徒の皆さんにおかれましては、より一層邁進されて、良い結果が出ると思っております。また、68ページに三つのテーマがありますけれども、その中で学校・家庭・地域の連携力の強化というところですが、このようなICTを使っていくような中で、地域において学んだことを発揮するという視点では、もっと利用してもいいのではないかと感じております。</p> |
| 義務教育課長 | <p>我々も、今回の結果について危機感を感じておるところでございます。今一度、手綱を締め直すという、しっかりそのことについてはやっていきたいと思っております。なお、山口県の強みでありますコミュニティ・スクールを核としたものであるとか、先ほどありました、ICTの活用につきましても、十分にそのよさを失わないように進めていきたいと思っております。</p> |
| 佐 野 委 員 | <p>37ページの「いじめは絶対にいけない」というアンケートについてなんですけれども、新型コロナでいろいろな社会が右往左往をして、子どもたちの心への影響や変化がずいぶん気になっていました。このところ徐々に、どんな理由であってもいけないことだと断言できないことが若干増えてきていると思います。最近のコロナや戦争とか社会の難しい問題が表に出てきて、複雑化してることもあって大人でも難</p> |

| | |
|---------------|---|
| | <p>しい問題だなと思います。子どもたちがそういう社会の混乱を学ぶことで戸惑ってしまわないか心配なところで、その辺り自分自身で考えて、やはりいじめは悪いんだという結論に至る人になってほしいなというところを強く思います。</p> |
| <p>義務教育課長</p> | <p>ありがとうございます。いじめのことについては「いじめは絶対にいけない」と回答する割合を100%にしないといけないと思っております。子どもたちの日常と現在の社会事情を照らした中で、指導をしていかなければならないと思っています。併せて、これまで学校でも行われておりますけど、大人と一緒に考える機会をもつなど、このいじめに対しての意識は100%を目指してこれからも進めていきたいと思っています。</p> |
| <p>佐野委員</p> | <p>昨年も言ったような気がするんですけども、子どもたちへの質問については全国よりも山口県の子どもたちががんばっているなというところを感じています。学校質問用紙の方なんですけど、非常に良い結果が出ていますけれども、いろいろな課題を解決して対応できているのかというと、顕著な結果が出ているのかと言えばそれはどうだろうと思うところもあります。学校としてはこういうポジティブな考え方が良い方向へ導く方向性なのかと思うのですが、やはりできないところとかを把握して、そういうのを的確に対応、判断していくということも必要だと思うので、その辺を考えると、もう少し厳しく見ながらお答えいただいた方がいいのかなと思うのですが、いかがでしょうか。</p> |
| <p>義務教育課長</p> | <p>委員さんのおっしゃる通り、我々も特に校長が回答する学校質問紙と、児童生徒質問紙の回答のギャップが開いているところに着目をしています。各学校や市町教委にも、どのように分析をするのかを話題にしています。また、学校が行う学校評価項目によって、保護者や地域の回答と児童生徒の回答のギャップに着目するなどして、的確に判断、対応していくよう、厳しく指摘していきたいと思っております。</p> |
| <p>教育長</p> | <p>それでは、報告事項2については、以上のとおりとします。</p> <p>次に、次回の教育委員会会議の日程について、教育政策課から説明をお願いします。</p> |
| <p>教育政策課長</p> | <p>次回の教育委員会会議は、令和5年9月14日（木）午後2時を予定しております。よろしくをお願いします。</p> |